

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300297		
法人名	株式会社ふるさと		
事業所名	グループホームふるさとの丘・山鳩の里		
所在地	長崎県諫早市中通町993-7		
自己評価作成日	平成 27 年 10 月 15 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 2 月 4 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=4271300297-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 27 年 11 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、市街からは少し離れた自然豊かな環境の中にあり、季節の移り変わりを肌で感じ取ることができる。その環境を存分に活かし、各季節の花見や、地元の花火大会、ホーム周辺で収穫した山菜などの季節の食材を食したりと、季節ごとの楽しみに溢れている。当社の社是である「安全はすべてに優先する」や、理念である「人権の尊重」、「温もりと穏やかな笑顔の追及」、「喜怒哀楽の共有」を全職員が理解し実践してケアにあたっている。全職員が向上心を持ち続け、職員同士やご家族とのコミュニケーションを密にして、信頼関係を築き連携をしながら、利用者様一人ひとりに対して、尊敬の念、感謝の気持ちを持って、自立支援に努めている。安全面においては、社是のもと、オール電化、スプリンクラーやAEDの設備を充実させるとともに、救命講習の受講や定期的な防災訓練を通して、利用者様の命を守る取り組みにも努めている。地域社会の一員として、積極的に地域の行事活動に参加しており、特に町内の清掃や草刈りには、事業所の役目として、多くの人員を派遣し貢献し、感謝をいただいている。さらに、社会での認知度を上げ、地域の理解や協力を得ることを目的に、地域との交流や自由な施設見学、認知症サポーターの仕事を通して、グループホームや認知症について知ってもらう活動に努めている。食事では、利用者様の状態に応じて、ご家族と連携を取り、栄養補助食品の利用やゼリー食の提供等、様々な個別対応を行っている。

本年度は、代表の「笑顔は万国共通の言語である」という思想から、そこで働く職員が、楽しく働いていなければ、利用者様に対して笑顔を見ることができないし、笑顔がない職場では、利用者様の安心・安楽はないという考え、事業所が笑顔であふれるように、職場環境・職員処遇の改善や個人ヒアリング、また、自信を持って利用者様の支援が行えるよう、社内教育や外部研修会への参加の機会を増やし、職員の教育に力を注いでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に囲まれた当ホームは、昨年より新たな代表者となり入居者が望む生活の更なる実現に向け、職員の業務負担や職場環境の改善に取り組まれた。記録物を電子化することで職員間及び各ユニットで速やかに具体的な情報共有に繋がり、また、福祉車両を購入した事は職員や車椅子利用者の負担軽減はもとより、日常的な外出支援の拡大へと繋がった。代表者・職員共に理念の実践に繋げるべく、資格取得や介護技術等の知識の向上に努め、日々介護の専門性を深める取組がある。地区の『いきいきサロン』では行政と協力し、認知症の家族や独居老人の相談に応じることで高齢者が安心して暮らせる街づくりへの機能を担い、オレンジ手帳の普及啓発活動や地域の介護拠点として地域の方の安心に繋がるよう情報発信に努めるなど今後も期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ふるさとの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として自覚を持ち、弊社理念のもと、家庭的な環境と地域の中でその人らしい生活が送れるように支援を行い、職員もホームを我が家と考えている。職員とヒアリングを通じて、理念の確認、説明と共有を行っている。	月1回のミーティングやミニカンファレンスで気になる事等を話し、具体的な対応を共有する事でケアの統一を図り理念の実践に努めている。両ユニットを通して新しいアイデアを取り入れながら、日々の支援に取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方とは常に挨拶を交わしている。町内会に入会し、町内の清掃、祭りなどの行事には積極的に参加し、地域の一員として交流を図っている。	入居者家族を通して地域の方と顔なじみの関係性へと進歩してきており、知人の方が来訪しやすいよう迎へに行く事もある。また、入居者と共に作ったおもちを地域の方へ配り、地域の方の楽しみにも繋がり、職員は積極的に地域の方と交流するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催や地域の集いにも参加し、質問・相談を受けている。また、職員は認知症サポーターのキャラバンメイトとして、認知症高齢者の理解や支援方法について、地域の方に知ってもらおう活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、行事活動、研修会、評価結果などの報告を行い、意見を頂いている。運営推進会議後、ホームの行事に参加して頂いたり、写真を使ってホームの様子をお伝えしている。	行政・自治会長・入居者・家族の他に、内容に応じて駐在所や消防設備会社の方の参加がある。推進会議は代表者らが話しやすい雰囲気作りに努め、スライドを用いて分かりやすい報告を行い、参加メンバーから積極的な意見がある。今後も、会議には色々な人に参加して欲しいと取組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当課とは常に連携し、運営推進会議の参加や公的扶助を受けている利用者の担当者がホームに訪れ、協力しながら、ケアサービスの向上に繋げている。各種相談、質問に対応して頂き、また現場の状況を知って頂く為、研修・行事に参加してもらい職員と交流も図っている。	社協開催の「いきいきサロン」で介護保険の申請や認知症の病気・独居老人の相談等に応じ、行政と連携して地域の方へ伝えていくよう取組んでいる。行政には行方不明となった時の情報として、地域の方にもその人が分かりやすい(検索)シートを作成する事と、有事の際に備え市町村と福祉施設との協力体制を構築したい考えがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束の3原則を意識し、帰宅願望、徘徊といった周辺症状にも、職員は共に外出するなど利用者に寄り添うケアを実践している。また、ベッド柵や話す言葉にも気を付け、その都度身体拘束になるかならないかを協議している。	内・外部研修を通し知識向上に努め、身体拘束をしないケアの実践に取組んでいる。人手が少ない夜間は、特にスピーチロック(言葉による行動抑止)とならないよう、説明し入居者の同意を得てから待ってもらうよう努めている。また、入居者が徘徊する時は行動を見守り声かけ等で行動を抑制せず、入居者が納得するまで見守りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待禁止法も含め、社内及び社外研修会に参加し、参加できなかった職員も共有できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し他の職員にも説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書や重要事項を詳しく説明し、同意を得ている。契約改定の場合も十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、日々のコミュニケーションの中で、意見や要望を伺い、その方の希望にそえるよう努めている。ご家族とも、親密に接しながら、意見を言える雰囲気づくりや人間関係の構築に努めている。また、ホーム玄関に意見箱を設置している。	家族訪問時に入居者の近況報告をすると共に、意見・要望を聞くよう努めている。現在、家族からの意見に対して日々の業務を振り返り、掃除について改善を図っている。今後も入居者・家族の意見・要望を頂けるよう、信頼関係作りに取り組んでいる。	家族訪問時に限らず、新人職員の紹介をする事や新たな入居者家族に向け職員を紹介する事もコミュニケーションを図る上で必要と考えます。お便りに職員紹介を入れる等、家族と更に絆を深める為の工夫を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全体ミーティングとユニットカンファレンスの開催や個人のヒアリングを行い、職員からの意見やアイデアを提案してもらえ機会を広く設けている。また、食事会の場を設け、気楽に話せる雰囲気を作っている。	職場環境や職員処遇の改善を行い、福祉用具・車両の購入等職員の負担を軽減するよう取り組んでいる。代表者は職員の意見・意思を汲み取り、現在は職員の資格取得に向け実技講習を通して基本に戻り、日々のケアに反映するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と共に勤務し、実践の中で認知症介護のやりがいを伝えたり、勤務状況の把握、業務改善に努めている。給与水準の見直し、介護記録の電子化など、職場環境の整備が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内は職員に通達している。また、職員一人ひとりの力量を把握し、外部研修会の参加を提案したり、全体ミーティングで法人内での研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市GH連絡協議会の研修会やボウリング大会の参加、消防の大会に参加するなど、他事業所と一緒に学びながら、親睦を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談し、利用者やご家族、関係者から情報収集し、状態を把握している。入居後、生活が安定するまでは個別記録を詳細に記述し、ご家族、関係者と協力しながら、状況の変化に応じた支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労やサービスの利用状況などを聞き、入居後、本人が安定するまでは定期的にご家族に連絡をし、報告や要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、出来る限り柔軟な対応を行い、改善に向けた支援の提案・相談に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が利用者から学ぶ姿勢を持ち、共に生活しているという意識を持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には本人の状況を報告、相談し、情報の共有に努め、信頼関係の構築に努めている。必要により、ご家族に協力を頂いている。また、面会時間は定めておらず、ご家族の宿泊も受け入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの知人・友人の方々との面会を積極的に支援している。地域の行事にも参加し、人や場所との関係の継続に努めている。	外出支援に力を入れ、入居者の希望に応じてお墓参りや自宅等へ出かけるよう取組んでいる。入居者との会話から、職員が馴染みの場所の写真を撮ってきたり、商店街へ出かけ馴染みの方との再会に繋がった事例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は全ての職員が把握しており、状況に応じた支援を行っている。ユニットの枠に囚われることなく、利用者の交流を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても次の施設や病院へ詳しく情報提供を行い、面会に行っている。退居された利用者のご家族がホームに遊びに来られたり、年賀状のやりとりなどの関係を継続している。誕生日や敬老の日には花を贈っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者やご家族の意思を踏まえて、職員間で検討している。また、日々の行動・言葉・表情などから、本人の思いや意向を推測したり確認することに努め、ケアに反映させている。	職員それぞれの特色を活かし、入居者と二人きりで話す事を大事に、何気ない会話から思いを聞き出すよう努めている。業務記録には本人の言葉をそのまま記録し、その時の具体的な対応内容を記載する事で情報を共有し、統一したケアができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階で、本人やご家族、関係者から生活歴、ライフスタイルなどの基本情報を得て、本人の生活全体像を把握するよう努めている。入居後も継続して情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりと向き合い、日々の生活(関わり)を通して、一日の過ごし方、心身状態、残存機能の把握に努める。さらに、本人の行動・動作・発言を記録し、ケアの向上に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者との日々の生活(関わり)や家族とのコミュニケーションを通して、思いや意見を聞いて、介護計画を作成している。また、月に一度カンファレンスを開き、計画を見直している。必要があれば、随時カンファレンスを開き、見直しを行っている。	担当者・リーダー・ケアマネがモニタリングを行い、ケアマネが計画書を作成している。モニタリング表には達成度や見直しとその理由を記載し、家族からの要望を支援経過に記載する事で計画書に反映するよう努めている。また、職員は介護記録と職員予定表で計画書を意識して支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子やケアの内容、気づきなどを記録している。また、毎日の申し送りや全職員で情報を共有し、日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族のニーズに耳を傾け、全職員で必要性や安全性等を十分に検討した上で、可能な限り柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らせるように、交番や消防団に協力を得ている。ホーム周辺の自然や近隣の観光地を利用して、季節を感じてもらっている。地域のスーパーや病院・歯科を積極的に利用している。ホーム内の行事には公民館の備品をお借りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族が希望する医療機関を優先し、職員が医師に利用者の状態を報告しながら、通院を支援している。また、必要に応じて専門医の受診も支援している。ご家族同意のもと、協力医と24時間連携体制を築き、週1回の往診と急変時には随時往診を依頼している。	入居者・家族の希望の病院へ職員が対応し受診している。結果については訪問時に報告し、急な受診や薬等変更がある時は都度報告している。業務記録を電子化した事で医師へ情報が伝えやすくなり、傷の写真を添付する等、事前に医師に状態を伝える事で、受診時における入居者の負担軽減にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、協力医とも連携を取りながら、常に利用者の健康管理に努めると共に、状態変化に応じた支援を行っている。看護職員による褥瘡指導で症状が著しく改善されたり、介護職と看護職が連携し、終末期の介護を行うことができた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を詳しく医療機関に提供し、認知症の進行を極力抑えたり、状態を把握する目的で、頻回に職員が見舞いに行くようにしている。病院やご家族とも回復状況など情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時だけではなく、状態に応じて利用者やご家族に意向を確認している。また、重度化した場合には本人や家族の意向を踏まえ、協力医と連携を取り、随時意思確認をしながら取り組んでいる。	家族の意向を確認しながら、ホームでできる事の説明を行い、代表者・職員の『一緒に過ごした方をみたい』との想いで看取りに取り組んでいる。終末期を迎えた入居者には職員が泊まり込み(夜勤2名体制)、他入居者へ配慮しながら家族の意向へ沿うよう支援に努めた。また、看取り後は内部研修で振り返り、職員の意思確認・ケアにも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、使用法や心肺蘇生法、応急処置等を全ての職員が実践できるよう定期的に訓練している。心肺停止状態になった利用者にはAEDを使用し、救急隊の到着まで心肺蘇生を行った事例もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回、避難訓練を行い、消火器操法の練習、非常用備品の点検も定期的に行っている。また、緊急連絡網を作成し、状況に応じ、職員が待機する場合もある。地域の消防団や自治会長にも協力を得ている。火災を未然に防ぐため、IHコンロの設置や定期的にコンセントまわりの清掃を行っている。	年に2回職員・入居者参加の下、夜間想定で避難訓練を行っている。内1回の消防署立会の訓練では消防団・自治会長の参加もあり、有事の際の協力体制がある。 代表者は、災害時に地域の方の避難場所となる事が想定される事を認識している。	命を第一と考え有事に備える為には法令で定められた2回だけではなく日常的な意識付けや訓練をする事も必要と考えます。特に新人職員も体得できるよう、また、有事の際に職員が迷いなく動けるよう避難訓練を実施する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当社の理念でもある「人権の尊重」を常に意識しながら、敬意を払い、利用者とは日々接している。主観的に各自が自覚するだけでなく、客観的な視点からも検討するため、ご家族や別ユニットの職員から意見を聴取し、改めるべきものは話し合い、改善に努めている。	業務を簡素化し、職員に時間のゆとりが持たせた分入居者へ関わる時間を増やすよう改善した。時間のゆとりが心のゆとりとなり、入居者を尊重した言葉かけや対応となるよう、職員同士注意しながら支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その利用者にあった言葉かけや方法を用いて、本人がどうしたいのか、何がしたいのかなど思いや希望を聞いている。意思表示が困難な方には、ご家族に相談したり、日々の生活の中から判断するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は時間を区切った過ごし方せず、一人ひとりのペースを守り、利用者の状態や希望に合った生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人・ご家族が持参されたものや職員が買い物に同行し、ご自身が着たい洋服を選んで購入している。着用も本人の意思を尊重し、職員は必要に応じて見守り、介助を行っている。訪問美容の際は、希望に応じてカラーリングもしてもらっている。誕生会などの行事で、女性は化粧をし、男性はスーツを着て、参加して頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談し希望に沿った食事を提供している。彩りや盛り付けを工夫し、食欲が湧くよう配慮している。畑の野菜や山菜など自然環境を活かした旬な食材を取り入れたり、外食や野外で食事をしたり、四季を感じてもらおうよう心掛けている。準備や片付けも出来ることは職員と一緒にやっている。	入居者の状態に応じた食事形態で提供し、入居者もできる範囲でもやしの根切りや食材を混ぜたり茶碗拭きの手伝いをしている。また、外食やオードブルを注文した時は選ぶ喜びを感じてもらい、食事を楽しんでもらうよう取り組んでいる。職員は感謝の声掛けを行い、入居者に役に立っていると認識してもらおうよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1300～1500kcalを目安にバランスを考えて献立を作成し、水分摂取量は1日1500mlを目安にしている。利用者の状態に合わせて刻み食やトロミ食、ゼリー食を提供している。また食器も食べやすいようにその方にあったものや馴染みのものを使用している。食事、水分摂取量は毎日記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、必要に応じて介助し、口腔状態の確認やスポンジブラシでの口腔ケアも行っている。また、嚥下障害のある方には、舌のマッサージも行っている。義歯は週に2回洗浄し、清潔を心掛けている。歯科の研修会にも参加し、ケアの向上にも繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態やパターンを把握し、尿意のない利用者には、さりげなく声をかけ、トイレに行くよう促している。また、研修に参加し、その方にあったおむつの選択を行っている。失禁した際には、誇りを損ねることがないように配慮し、支援している。	入居者の状態に応じ安定した座位を保持できるよう、跳ね上げ式手すりや安全バーを設置してトイレで排泄できるよう取組んでいる。毎日陰部洗浄を行い清潔・衛生面にも配慮している。また、外出の際は事前に場所をリサーチし、トイレで排泄できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼るのではなく、牛乳や食物繊維の取れる食事を提供したり、腹部マッサージや適度な運動を取り入れ、自然排便ができるよう取り組んでいる。その方の排便パターンを把握することで、下剤の服用回数が減少した。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常、入浴は原則週3回行っているが、利用者の希望があれば、その都度、入浴して頂いている。また、入浴時間や湯加減、介助者の性別など、個々のニーズに沿った支援を行っている。	基本1対1の対応で入居者が楽しんで入浴できるよう取組んでいる。入浴を拒否する方には入居者の気持ちに配慮し、居室で会話しながら入浴したくなるタイミングを見計らって声掛けし入浴に繋がった事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、夜にゆっくりと休めるよう生活のリズムを整え、就寝前には、温かいミルクを飲んで頂き、眠りを促す取り組みをしている。利用者の希望や状況に応じて、日中でも居室で休んで頂いている。眠剤を服用している方は生活の妨げになっていないか様子を観察している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は介護記録に記入し、全職員に申し送り、情報を共有している。薬には利用者名を記入し、投薬する時は職員同士で二重に確認し、誤薬防止に努めている。薬の種類や用量に変更があった時や頓服薬を服用したときには、本人の状態変化に注意し、記録するようにしている。必要に応じて、医療機関と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け・洗濯・裁縫・畑の作物作りなど得意分野で一人ひとりの力を発揮できるよう支援しており、職員は必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。カラオケ・将棋・散歩・地域の行事に参加するなどの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って、外食や買い物など支援をしている。福祉車両を購入し、体が不自由な利用者も負担なく、外出できるようになった。	入居者の希望に応じ買い物・外食ができるよう支援に取り組んでいる。時には家族の協力を得ながら外出することもある。福祉車両を購入した事で、車椅子使用の入居者も負担なく外出できるようになった。日々の生活の中でリハビリを取り入れ、安定した座位を保つ事で、更に外出する機会が増えるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望により、ご家族の協力を得て、お金を所持してもらって、買い物や孫への小遣いを渡すなどの支援をしている。ホームでお金の管理している利用者でも、本人の希望に応じ、いつでも遣えるようにしている。ふるさと祭りの模擬店では、手作りの金券を遣ってもらうことで社会性の維持を図っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いなどを出す利用者の支援を行い、本人の希望に応じて電話をしたり、手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周りの環境は四季の移り変わりを感じることができる。共有場所は生活感と寛ぎを大切に、季節の花を飾っている。また、温度・湿度計を設置し、快適な環境作りに努めている。	今年4月に入居者が過ごしやすいよう家具の配置を見直し模様替えを行った。見当識が低下した入居者に対しトイレの場所をボードに大きく表記することで不安を取り除き自立を促すよう取り組んでいる。広々としたテラスでは食事やミニプールで遊ぶ等、入居者の楽しみに繋げ、夏場はグリーンカーテンを作り居心地良く過ごせる工夫が窺われた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室があり、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげる空間を設けている。また、事務所の2階和室が談話室になっており、自由に利用できる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者を使い慣れたタンス、写真、仏壇、ベッドなど自由に持ち込んで頂き、一人ひとりが安心して過ごせる居心地良い居室作りに努めている。	入居者は使い慣れた筆筒や写真・仏壇等を持ち込み、思い思いの居室となっている。車いすでも仏具の手入れがしやすい高さに家具を配置することでその方の力の継続に繋げ、寛げる空間づくりに努めている。職員は掃除についての認識を改め、掃除を改善し居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には顔写真と名前を掲示している。便所、洗面台、浴室には貼り紙をして対応している。その他状況に応じて、本人の不安や混乱、失敗を招くことがないように、環境整備に努めている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 山鳩の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一人として自覚を持ち、弊社理念のもと、家庭的な環境と地域の中でその人らしい生活が送れるように支援を行い、職員もホームを我が家と考えている。職員とヒヤリングを通じて、理念の確認、説明と共有を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣住民の方とは常に挨拶を交わしている。町内会に入会し、町内の清掃、祭りなどの行事には積極的に参加し、地域の一人として交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催や地域の集いにも参加し、質問・相談を受けている。また、職員は認知症サポーターのキャラバンメイトとして、認知症高齢者の理解や支援方法について、地域の方にも知ってもらう活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、行事活動、研修会、評価結果などの報告を行い、意見を頂いている。運営推進会議後、ホームの行事に参加して頂いたり、写真を使ってホームの様子をお伝えしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課とは常に連携し、運営推進会議の参加や公的扶助を受けている利用者の担当者がホームに訪れ、協力しながら、ケアサービスの向上に繋げている。各種相談、質問に対応して頂き、また現場の状況を知って頂く為、研修・行事に参加してもらい職員と交流も図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束の3原則を意識し、帰宅願望、徘徊といった周辺症状にも、職員は共に外出するなど利用者に寄り添うケアを実践している。また、ベッド柵や話す言葉にも気を付け、その都度身体拘束になるかならないかを協議している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待禁止法も含め、社内及び社外研修会に参加し、参加できなかった職員も共有できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し他の職員にも説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書や重要事項を詳しく説明し、同意を得ている。契約改定の場合も十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、日々のコミュニケーションの中で、意見や要望を伺い、その方の希望にそえるよう努めている。ご家族とも、親密に接しながら、意見を言える雰囲気づくりや人間関係の構築に努めている。また、ホーム玄関に意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全体ミーティングとユニットカンファレンスの開催や個人のヒヤリングを行い、職員からの意見やアイデアを提案してもらえる機会を広く設けている。また食事会の場を設け、気楽に話せる雰囲気を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と共に勤務し、実践の中で認知症介護のやりがいを伝えたり、勤務状況の把握、業務改善に努めている。給与水準の見直し、介護記録の電子化など、職場環境の整備が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内は職員に通達している。また、職員一人ひとりの力量を把握し、外部研修会の参加を提案したり、全体ミーティングで法人内での研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市GH連絡協議会の研修会やボウリング大会の参加、消防の大会に参加するなど、他事業所と一緒に学びながら、親睦を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談し、利用者やご家族、関係者から情報収集し、状態を把握している。入居後、生活が安定するまでは個別記録を詳細に記述し、ご家族、関係者と協力しながら、状況の変化に応じた支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労やサービスの利用状況などを聞き、入居後、本人が安定するまでは定期的にご家族に連絡をし、報告や要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、出来る限り柔軟な対応を行い、改善に向けた支援の提案・相談に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が利用者から学ぶ姿勢を持ち、共に生活しているという意識を持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には本人の状況を報告、相談し、情報の共有に努め、信頼関係の構築に努めている。必要により、ご家族に協力を頂いている。また、面会時間は定めておらず、ご家族の宿泊も受け入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの知人・友人の方々との面会を積極的に支援している。地域の行事にも参加し、人や場所との関係の継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は全ての職員が把握しており、状況に応じた支援を行っている。ユニットの枠に囚われることなく、利用者の交流を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても次の施設や病院へ詳しく情報提供を行い、面会に行っている。退居された利用者のご家族がホームに遊びに来られたり、年賀状のやりとりなどの関係を継続している。誕生日や敬老の日には花を贈っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者やご家族の意思を踏まえて、職員間で検討している。また日々の行動、言葉、表情などから、本人の思いや意向を推測したり、確認することに努め、ケアに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階で、本人やご家族、関係者から生活歴、ライフスタイルなどの基本情報を得て、本人の生活全体像を把握するよう努めている。入居後も継続して情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりと向き合い、日々の生活（関わり）を通して、一日の過ごし方、心身状態、残存機能の把握に努める。さらに、本人の行動、動作、発言を記録し、ケアの向上に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者との日々の生活（関わり）や家族とのコミュニケーションを通して、思いや意見を聞いて、介護計画を作成している。また月に一度カンファレンスを開き、計画を見直している。必要があれば、随時カンファレンスを開き、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子やケアの内容、気づきなどを記録している。また、毎日の申し送りでも全職員が情報を共有し、日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族のニーズに耳を傾け、全職員で必要性や安全性等を十分に検討した上で、可能な限り柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らせるように、交番や消防団に協力を得ている。ホーム周辺の自然や近隣の観光地を利用して、季節を感じてもらっている。地域のスーパーや病院・歯科を積極的に利用している。ホーム内の行事には公民館の備品をお借りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族が希望する医療機関を優先し、職員が医師に利用者の状態を報告しながら、通院を支援している。また、必要に応じて専門医の受診も支援している。ご家族同意のもと、協力医と24時間連携体制を築き、週1回の往診と急変時には随時往診を依頼している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、協力医とも連携を取りながら、常に利用者の健康管理に努めると共に、状態変化に応じた支援を行っている。看護職員による褥瘡指導で症状が著しく改善されたり、介護職と看護職が連携し、終末期の介護を行うことができた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を詳しく医療機関に提供し、認知症の進行を極力抑えたり、状態を把握する目的で、頻回に職員が見舞いに行くようにしている。病院やご家族とも回復状況など情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時だけでなく、状態に応じて利用者やご家族に意向を確認している。また重度化した場合には本人や家族の意向を踏まえ、協力医と連携を取り、随時意思確認をしながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、使用法や心肺蘇生法、応急処置等を全ての職員が実践できるよう定期的に訓練している。心肺停止状態になった利用者にAEDを使用し、救急隊の到着まで心肺蘇生を行った事例もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回、避難訓練を行い、消火器操法の練習、非常用備品の点検も定期的に行っている。また緊急連絡網を作成し、状況に応じ、職員が待機する場合もある。地域の消防団や自治会長にも協力を得ている。火災を未然に防ぐため、IHコンロの設置や定期的にコンセントまわりの清掃を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当社の理念でもある「人権の尊重」を常に意識しながら、敬意を払い、利用者と日々接している。主観的に各自が自覚するだけでなく、客観的な視点からも検討するため、ご家族や別ユニットの職員から意見を聴取し、改めるべきものは話し合い、改善に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その利用者に合った言葉かけや方法を用いて、本人がどうしたいのか、何がしたいのかなど思いや希望を聞いている。意思表示が困難な方には、ご家族に相談したり、日々の生活の中から判断するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は時間を区切った過ごし方はせず、一人ひとりのペースを守り、利用者の状態や希望に合った生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人・ご家族が持参されたものや職員が買い物に同行し、ご自身が着たい洋服を選んで購入している。着用も本人の意思を尊重し、職員は必要に応じて見守り、介助を行っている。訪問美容の際は、希望に応じてカラーリングもしてもらっている。誕生日などの行事で、女性は化粧をし、男性はスーツを着て、参加して頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談し希望に沿った食事を提供している。彩りや盛り付けを工夫し、食欲が湧くよう配慮している。畑の野菜や山菜など自然環境を活かした旬な食材を取り入れたり、外食や野外で食事をしたり、四季を感じてもらおうと心掛けている。準備や片付けも出来ることは職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1300～1500kcalを目安にバランスを考えて献立を作成し、水分摂取量は1日1500mlを目安にしている。利用者の状態に合わせて刻み食やトロミ食、ゼリー食を提供している。また食器も食べやすいようにその方にあったものや馴染みのものを使用している。食事、水分摂取量は毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、必要に応じて介助し、口腔状態の確認やスポンジブラシでの口腔ケアも行っている。また、嚥下障害のある方には、舌のマッサージも行っている。義歯は週に2回洗浄し、清潔を心掛けている。歯科の研修会にも参加し、ケアの向上にも繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態やパターンを把握し、尿意のない利用者には、さりげなく声をかけ、トイレに行くよう促している。また、研修に参加し、その方にあったおむつの選択を行っている。失禁した際には、誇りを損ねることがないように配慮し、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼るのではなく、牛乳や食物繊維の取れる食事を提供したり、腹部マッサージや適度な運動を取り入れ、自然排便ができるよう取り組んでいる。その方の排便パターンを把握することで、下剤の服用回数が減少した。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常、入浴は原則週3回行っているが、利用者の希望があれば、その都度、入浴して頂いている。また、入浴時間や湯加減、介助者の性別など、個々のニーズに沿った支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、夜にゆっくりと休めるよう生活のリズムを整え、就寝前には、温かいミルクを飲んで頂き、眠りを促す取り組みをしている。利用者の希望や状況に応じて、日中でも居室で休んで頂いている。眠剤を服用している方は生活の妨げになっていないか様子を観察している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は介護記録に記入し、全職員に申し送り、情報を共有している。薬には利用者名を記入し、投薬する時は職員同士で二重に確認し、誤薬防止に努めている。薬の種類や用量に変更があった時や頓服薬を服用したときには、本人の状態変化に注意し、記録するようにしている。必要に応じて、医療機関と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯、裁縫、畑の作物作りなど得意分野で一人ひとりの力を発揮できるよう支援しており、職員は必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。カラオケ、将棋、散歩、地域の行事に参加するなどの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って、外食や買い物など支援をしている。福祉車両を購入し、体が不自由な利用者も負担なく、外出できるようになった。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望により、ご家族の協力を得て、お金を所持してもらって、買い物や孫への小遣いを渡すなどの支援をしている。ホームでお金の管理している利用者でも、本人の希望に応じ、いつでも遣えるようにしている。ふるさと祭りの模擬店では、手作りの金券を遣ってもらうことで社会性の維持を図っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いなどを出す利用者の支援を行い、本人の希望に応じて電話をしたり、手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周りの環境は四季の移り変わりを感じることができる。共有場所は生活感と寛ぎを大切に、季節の花を飾っている。また、温度・湿度計を設置し、快適な環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室があり、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげる空間を設けている。また事務所の2階和室が談話室になっており、自由に利用できる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れたタンス、写真、仏壇、ベッドなど自由に持ち込んで頂き、一人ひとりが安心して過ごせる居心地良い居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には顔写真と名前を掲示している。便所、洗面台、浴室には貼り紙をして対応している。その他状況に応じて、本人の不安や混乱、失敗を招くことがないように、環境整備に努めている。		